


令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 北九州市 】

学校名【 北九州市立長尾小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	第5学年 81名 (トランポリン) 第6学年 61名 (世界体操・新体操)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (<u>総合的な学習の時間</u>) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック種目であるトランポリンを体験したり、競技者と交流したりすることで、トランポリンやオリンピックに興味・関心をもてるようにする。 ・トランポリン体験を通してスポーツの楽しさに触れ、スポーツを楽しもうとする心をもつことができるようにする。 ・世界体操・新体操選手権北九州大会の1校1か国応援運動を通して、体操競技・新体操競技に興味・関心をもてるようにする。 ・イギリス及びカザフスタンの応援を通して、両国について興味・関心をもち、それぞれの国について調べ、他学年に伝えることができるようにする。
5 取組内容	1. トランポリン体験学習 (11月12日に実施) ① 競技者の模範演技を見る <ul style="list-style-type: none"> ・トランポリン競技のシンクロナイズドを実際に見る。 ・2人同時の息が合った演技や、宙返り等の大技を目の前で見て、児童から「お～!」「すごい!!」といった歓声があがった。 ② トランポリンを体験する 

- まっすぐに跳ぶ、膝立ち姿勢で跳ぶ、長座姿勢で降りて立ち上がる、腕を回して高く跳ぶ等、いろいろな跳び方を教わった。
- 原則1人2回ずつ挑戦し、できてもできなくても次の人と交代した。場が4つあり、それぞれに競技者の方がついて「目線を前に」等のアドバイスをしてくださったので、児童は安心して取り組むことができた。
- トランポリンの周りにマットを敷いたり、児童が昇り降りしやすいように跳び箱を台にして置いてあったりと、安全面を考慮した場の設定が行われていた。

③ トランポリンを行う上での危険や注意点を聞く

- 体験を通して児童から「楽しかった!」「もっとしたい!」といった声がたくさん聞かれた。そこで、身近にもトランポリンができる場所があるという話をしてくださった。今回の学びが、これまであまり馴染みのないトランポリンという競技に児童が関心をもち、今後のスポーツ体験にもつながる機会になった。
- 同時に、トランポリン体験ができる場所の一部は、1つのトランポリンに大人数が跳んでいたり、ルールを守らずに跳んでいたりすることがあり非常に危険である、と教わった。トランポリンに寝転がった児童が、隣で大人が跳ぶことで体が高く跳ね上げられる様子を実際に見せてくださったことで、危険性を実感することができた。

※事前にトランポリン種目について知る活動(8月の東京オリンピックや10月の世界体操と関連付けながら話をする、動画を見る)を行ったり、事後に振り返りを書いたりした。しかし、今回調べたり発信したりする時間がもてなかったため、単発的な学習になってしまった感は否めない。

2. 世界体操・新体操1校1か国応援運動

① 松岡修造さんとの交流を通して応援方法を考える

- 6月29日 オンラインで松岡修造さんと交流
- 自分たちが頑張っていること、できるようになったことなどを発表する。(マット運動、サッカーのリフティング、リコーダー演奏等)
- 松岡さんからのメッセージを受け取る。
 - 目標を持つことの大切さ
 - 「でんぐり返しのその先に」繰り返し行うその先には未来がある。
 - 「CANDO」できるという意味だが、ローマ字読みにすると「感動」一所懸命する姿は、みんなに感動を与えることができる。

② 日本、イギリス、カザフスタンの応援メッセージを作成する。

- 各国の特徴を調べ、応援メッセージの台紙を作成する。
- 全校児童に呼び掛け、応援メッセージの寄書を作成する。



③ 松岡修造さんとの2回目の交流

- 1校1か国応援運動のために取り組んできたことを紹介し、自分たちが頑張ってきたことや大切にしてきたことを発表する。



④ 世界体操公開練習を見学する。

- 実際に選手が本番同様の演技をしている様子を見て、児童からは歓声が上がっていた。また、「選手たちの迫力がすごかった。」「平均台の上で跳んだり、回ったりしてバランス感覚や技がすごかった。」「コーチや親など支えてくれる人たちがいるからこそ選手たちは頑張れるんだなと思った。」などの感想が見られ、実際に見ることでは味わえない感動を得ることができた。

⑤ リバプールの学校との交流

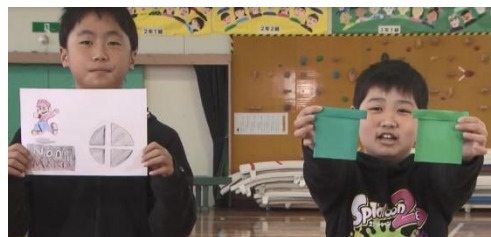
- リバプールから送られてきたビデオを視聴する。
- リバプールに送るビデオの構成を考え、グループごとに準備をする。(英語訳作成を含む)
- ビデオ撮影をする。

【モザイクアートでのイギリス国旗】



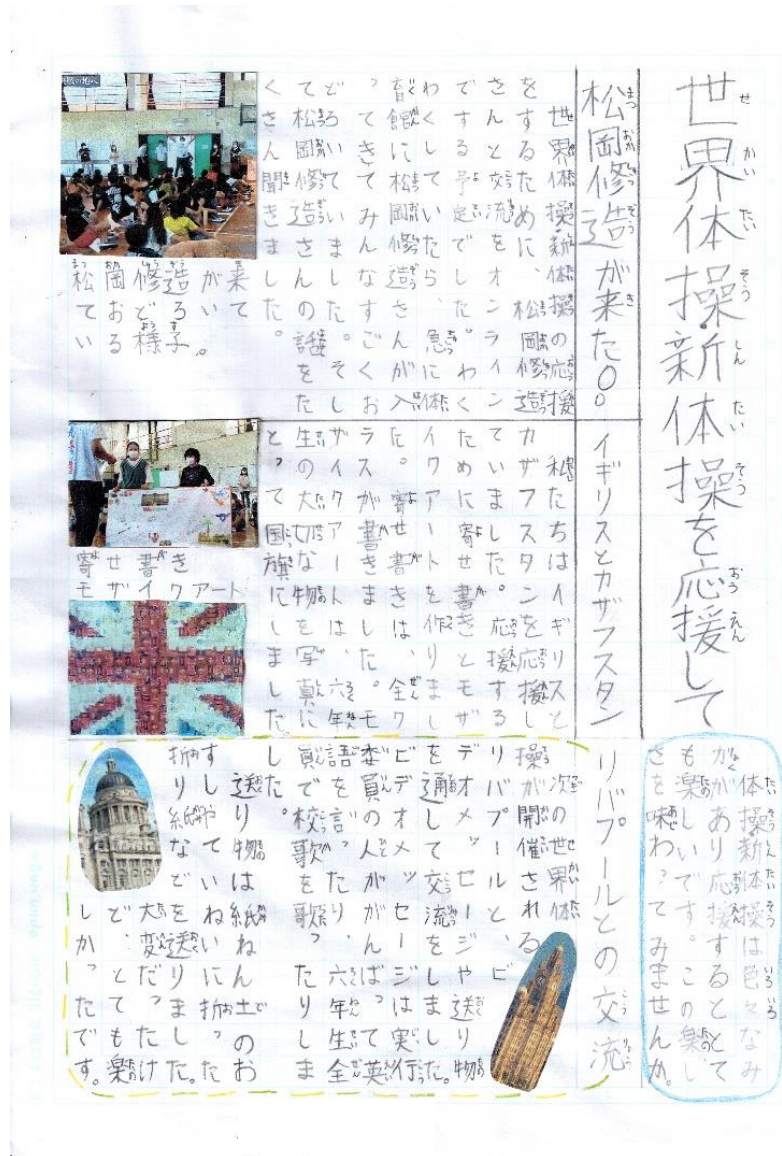
1校1か国応援運動で、自分たちがしたことを紹介する。

【日本のアニメの紹介】



- 交流ビデオの制作やリバプールから届いたお土産を通して、以下のような感想が見られた。

「リバプールへ送る映像の中で、折り紙で折った物を英語で発表しました。リバプールからは紅茶やお菓子などが送られてきました。このことから、僕は、外国の人と関わるためには表現力が大切であると思いました。この経験を生かして、いろいろな人と関わっていきたいと思います。」



6 主な成果

【トランポリン】

- 実際に体験することで、トランポリン種目に興味・関心をもったり、楽しさを知ったりすることができた。また同時に技を行う難しさも実感し、競技者の凄さや努力を知ることができた。
- 体験だけではなく、トランポリン競技者の模範演技を見たり、安全面についての注意を聞いたりする時間をもつことができた。危険について知ることができたことで、ただ「楽しかった」で終わらず、安全のために場を正しく設定したり、ルールを守ったりすることが大切だと気付くことができた。

【世界体操・新体操】

- 1校1か国応援運動を通して、体操競技や新体操競技、世界の国々について興味・関心をもち、意欲的に調べ学習に取り組んだ。
- 実際にトップアスリートの演技を見ることができ、一生懸命努力することの大切さを実感することができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・松岡修造さんとの交流やリバプールとの交流ビデオ作成等を通して、企画力や表現力を高めることができた。 ・松岡修造さんと2回の交流を通して、児童のモチベーションが上がり、その結果、10月の運動会では、児童自らの手でダンスの振り付けを考えたり、全校児童の応援をしたり、最上級生としての自覚と責任感が一層高まった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>【トランポリン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策として、体育館内の人数を少なくするために学年を2つに分けて行ったり、換気を徹底したりした。 ・トランポリンが4台用意されていたため、一人一人の体験時間を十分にとることができた。 <p>【世界体操・新体操】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会を作り、児童の手で企画・運営をさせることで、児童のモチベーションや意欲を高めるようにした。 ・実際に体操競技を観戦させることで、アスリートの素晴らしさを実感できるようにした。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック東京大会の後の実施で、期間もあいてしまったため関連付けが十分にできず、単発の活動になってしまった。年間で計画的に事前・事後の学習を組めるとよかった。 ・世界体操・新体操については、取組内容が多岐にわたったため、児童の負担が大きかった。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、普段あまり馴染みのないトランポリンを体験できたことは、児童にとって貴重な経験になった。「生涯スポーツ」の観点からも、体育科だけではなく、様々な場面でスポーツの話題を取り上げたり、いろいろなスポーツを知る・見る・体験する機会を設けたりすることが大切だと考える。 ・来年度以降、年間計画を見直し、調べたり発信したりする活動がもてるとよい。 ・リバプールの学校との交流を、来年度は現5年生に引継ぎ今後も続けていくようにする。